

アート×SDGs 秘境・秋山郷で表現する森の豊かさ



キーワード

森林の多様性・地域協働・美術表現・秋山郷

○取り組んだきっかけ

新潟県十日町市周辺の越後妻有地域では、2000年以来3年おきに「大地の芸術祭」を開催しています。東西32キロメートル、南北43キロメートル、面積は760平方キロメートルと東京23区の約1.2倍ほどの高大なエリアに300を超える芸術作品が展開しています。私は2006年から参加し、現在に至るまで関わり続けています。

○具体的な内容

大赤沢集落にある旧大赤沢分校内に雪で倒れた樹木を運び、教室内に秋山郷の森を再現しています。また、見倉のトチの原生林の写真を壁画に貼り込み、そこに越後妻有地域で採取された様々な樹木から作られた炭化彫刻を配置しています。



○期待される効果

この制作のために多くの学生がアシスタントとして現地に足を運び、秋山郷の大自然に触れながら活動することができました。狭い耕作地しか持てない山間部では焼畑に頼る農業形態が長く続き、人と自然が折り合いをつけながら生活してきました。これらの経験からの学びが学生自身の生き方に反映されることを期待すると同時に、この場所を訪れる人々に森の豊かさを伝えることができればと考えています。

教員名 山本浩二

所属学部・学科 造形学部 造形学科

職位 教授



○活動の目的

新潟県南端の津南町から長野県栄村にまたがる秋山郷は日本有数の豪雪地帯です。日本海の対馬暖流から流れ込む湿った空気は日本列島の脊梁山脈で雪をもたらし、春になると雪解け水が田畠を潤し、信濃川を通じて再び日本海へと戻っていきます。この大きな水の循環の中で育まれた秋山郷の森の豊かさを彫刻作品とインсталレーションによって表現しています。また、これらが恒久的な展示となることでこの地域における文化的拠点となることを目的としています。



連携先

NPO法人越後妻有里山協働機構
大地の芸術祭実行委員会